

1月社会の授業

1年生の社会では、子どもたちにとって身近なチョコレートを扱いました。原料は、カカオの実。とある映像を見て、カカオの実は児童労働が行なわれているという背景があることを知り、「チョコレートの味は血の味がする」と、これまでのチョコレートに対する見え方が変わる子がいました。子どもたちは、アフリカ（ガーナ）では「なぜ児童労働が行われているのか」「国や政府はなぜ止められないのか」「どのような歴史をもつ地域なのか」など、さまざまな疑問が生まれました。また、「どうすればアフリカの人たちが“より良い生活”を送ることができるのか」とアフリカの未来を考えようとする強い思いをもつ子もいました。こうした追求心をもとに、学級での問いをつくり、グループごとに調査する視点で手分けをし、共有後に考察し、学級全体で語り合いました。どのような語り合いが繰り広げられたかは、社会科部へお問い合わせください。



映像を観るようす



手分けして調べた内容をグループで共有するようす



2年生の社会では、「江戸時代のおわりのはじまりは？」という問いについて、江戸中期の『三大改革』と江戸末期『ペリー来航』に着目し、追求を進めています。

2年A組では、ペリーが日本にやってきた頃の世界情勢に迫る中で、江戸幕府が立ち行かなくなっていることへの気づきがあり、そこから三大改革の頃の社会の様子を追求しています。子どもたちは、「幕府の敵は、商人だったんじゃないか」「田沼の積極財政は、現代社会に似ている」「幕府の權威を守ろうとするものが“改革”と呼ばれている」…など、彼らなりの言葉で江戸時代の変化を語り、問いに迫ろうとする姿がありました。

教育研究発表会で“江戸時代のはじまり”を学んだ子どもたちが、どのように“江戸時代の終わり”をとらえるか、まだまだ語り合いがおもしろくなりそうです。



